

麦類赤かび病の防除を徹底しましょう！

本年産麦類の生育は、現在のところ平年より**早く**推移しています。県農業研究所作況試験データ（11月第3半旬播種）などから、穂揃期は平年（平年値：二条大麦；4月第2～3半旬頃、小麦；4月第4～5半旬頃）より**早くなる**と予想されます。二条大麦では蒴殻が押し出されてくる時期（穂揃期の10日後頃）、小麦では開花期以降は本病に感染しやすい状況となり、曇雨天が続く場合には発生が助長されます。**本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期してください。**

< 薬剤による防除法 >

薬剤散布は、大麦（閉花受粉性）では穂揃期の7～10日後頃（蒴殻抽出期）の防除を必須とし、その前（7～10日前）又はその後（7～10日後）と組み合わせた、合計2回を基本とする。小麦（開花受粉性）では開花を始めた時期から開花期（1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達した日）までの防除を必須とし、その後（7～10日後）に2回目の防除を行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

< 防除上の参考事項 >

- 1 岡山県における二条大麦の穂揃期（全茎の80～90%が出穂した日）は、出穂始（初めて穂先が葉鞘から現れた日）からおおよそ5～7日後であり、天候や品種によって前後するので注意する。
- 2 六条大麦の薬剤による防除法は、小麦に準ずる。
- 3 大麦及び小麦ともに開花期から20日を過ぎると防除効果が低下する。
- 4 小麦を除く麦類では、トップジンM粉剤、水和剤及びゾルでは出穂期以降は1回しか使用できないので注意する。
- 5 収穫後は速やかに乾燥する。

<麦類赤かび病の防除薬剤>

表1 麦類赤かび病に登録がある主な薬剤（令和8年3月16日現在）

薬剤名	農薬使用基準			FRACコード
	使用量・希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	
サルファーゾル	400倍	発病前～発病初期	-	M2
コロナフロアブル	400倍	-	-	
イオウフロアブル	400～800倍	発病前～発病初期	-	
トップジンM粉剤DL	3～4kg/10a(小麦)	収穫14日前まで	小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内) 麦類(小麦を除く): 3回以内 (出穂期以降は1回以内)	1
	4kg/10a [麦類(小麦を除く)]			
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで(小麦)		
		収穫30日前まで [麦類(小麦を除く)]		
	250倍 ^{**}	収穫14日前まで(小麦)		
トップジンMゾル	1,000～1,500倍(小麦)	収穫14日前まで		
	1,500倍 [麦類(小麦を除く)]			
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内	3
トリフミン乳剤	1,000倍(小麦)	収穫3日前まで		
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内	
	500倍 ^{**}			
	2,000倍	収穫14日前まで(大麦)		
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	11
ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍			
	500～750倍 ^{**}			
チルト乳剤25 ^{***}	1,000～2,000倍	収穫3日前まで(小麦)	3回以内	7
		収穫21日前まで(大麦)	1回	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	7
	500倍(小麦) ^{**}			
ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内	7
	250～500倍 ^{**}			
	1,500～2,000倍	収穫14日前まで(大麦)		

注) FRACコード：同一コードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

※：散布水量25L/10a

※※：プロピコナゾールを含む農薬の総使用回数は、小麦で5回以内（根雪前は2回以内、春期以降は3回以内）、大麦で1回

表2 無人航空機による散布の登録がある主な薬剤（令和8年3月16日現在）

薬剤名	農薬使用基準			FRACコード
	希釈倍数※	使用時期	本剤の使用回数	
トップジンMゾル	8倍	収穫14日前まで(小麦)	3回以内（出穂期以降は2回以内）	1
		収穫21日前まで〔麦類(小麦を除く)〕	3回以内（出穂期以降は1回以内）	
シルバキュアフロアブル	16倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内	3
		収穫14日前まで(大麦)		
ワークアップフロアブル	10～24倍	収穫7日前まで	3回以内	3
チルト乳剤25※※	8倍	収穫7日前まで(小麦)	3回以内	
		収穫21日前まで(大麦)	1回	
ミラビスフロアブル	8～16倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内	7
		収穫14日前まで(大麦)		

注) FRACコード：同一コードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

※：無人航空機による散布、散布水量0.8L/10a

※※：プロピコナゾールを含む農薬の総使用回数は、小麦で5回以内（根雪前は2回以内、春期以降は3回以内）、大麦で1回

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

